

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
整理番号	B24
構 想 名	G l o b a l L e a r n i n g : 大学教育の新しい地平を目指す

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) S	優れた取組状況で事業目的が十分に達成され、今後も持続的な発展が確実に期待できる。
(コメント) 事業期間全体において、未来に通じる開学の「3つの理念」の基に「Global Learning」を提唱し、「世界No.1のGlobal Learning University」への進化に向け、貴学が掲げる人物像育成のため推進したものである。その方針においても、開学以来維持してきた「3つの50」（留学生、外国籍教員、留学生出身）やSGU共通指標に加えて、本事業を契機に新たに「4つの100」（初年次学生教育寮、多文化協働学修実施授業率、在学中海外経験、留学生出身）を設定し、その実現に向けて全学をあげて取組み、成果も概ね達成していることから高く評価される。 事業展開に当たっては、世界に誇る「グローバル・ラーニング・コミュニティ」の創造に向け、必要な要素の改善を図ることで、圧倒的な多国籍・多文化環境キャンパスの土壌が確立されている。学生たちがそのような環境の基で学ぶことで多様な考え方や視点の獲得が涵養され、違いを乗り越えて協働し、主体的に学び合う「多文化協働学修」を実現してきたと言える。 また、国際通用性の高い教員の獲得や事務職員の国際対応力向上といった教職員の国際化の推進、多様なステークホルダーの声が大学運営に反映される意思決定機関の構築等の強力なガバナンス改革が進められている。さらには、学びの質保証による学習成果の適切な把握を行うことで、ビジネススクールの国際認証である、AACSB、AMBA を取得し、MBA プログラムを世界水準に高めており、国際的な教育研究の質の保証と向上に繋がっている。 事業期間を通して概ね優れた取組状況であった一方で、本事業を契機に新たに設定した「4つの100」の1つである「在学中の多様な海外経験（日本人学生）」については、事業開始以降順当に成果を伸ばしてきたが、コロナ禍の影響もあり、最終年度の実績としては64.6%に留まっている。この点について、事業期間は終了したところではあるが、ポストコロナの観点からも今後の発展が期待される。加えて、年俸制の導入や女性教職員比率の向上などの人事に関する内容についても、さらなる水準の向上に努めていただきたい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	